

固める理由

この世はくり返しで出来ている
そして、あっけなく流れてゆく

あたりまえにあるものの 大切さに気付くために 忘れないために 残すために
そこにあることに目を背けてしまわないために
そして 先に進むために

KASABUTA (漆・3/11 の新聞)

漆は、うるしの木が傷つくと自らを治すために出す樹液であり、いわば”血”である。
そしてカサブタのように固まる。
縄文時代から使われてきた漆は、もののカタチを残す役割も果たして来た。
遺跡の出土品の中には、漆が塗られていたからこそ当時のままの姿をとどめている物も多い。
2011年3月11日の出来事を残すため、現代の私は新聞紙に漆を塗ります。
このキズが癒えるように祈りをこめて。

ウケトメルカミ (漆・ティッシュペーパー)

涙を拭き、鼻を擤み、汚れを拭き取る。日々の暮らしを支えるティッシュペーパー。
1枚1枚のティッシュペーパーを繋ぎあわせ、漆で固めた。
そして、おおきなうつわになった。

ひと月の流れ (漆・1ヶ月分のトイレットペーパー)

呼吸と同じく、くり返しれる食事-排泄。
成功と失敗。幸運と不運。月の動き、太陽の動き。
この世はくり返しでできている。
それは、あっけなく流れていく。

漆（うるし）は、ウルシ科のウルシノキから採取した天然の樹液である。

湿度80%前後・温度20°C・そして空気、漆はこの三つの条件が揃わなければ固まらない。
漆はなにか重要なことを教えてくれているような気がする。